談話室

「山より大きい猪は出ない」

―― 新しい世紀を迎えるに当たって ――

１．事に当たって，とくに困難な問題に直面したとき，いつも自分に言い聞かせてきた言葉がある。「山より大きい猪は出ない」。あまり人口に膾炙した言葉ではないが，私にとっては身近な言葉である。

いつの頃からか，私はこの言葉を，“直面する困難は大変大きく見える。けれども，それは，後から振り返ってみると案外小さいことなのだ。解決できるものなのだ。”という意味で理解してきた。行く手に飛び出してきた猪は，一見，山より大きく目に映る。けれども，山より大きい猪がいるはずはなく，直面する問題とて同じことで，それもまた克服できるものだから，驚きを抑えて冷静に対処すれば，解決する方策も自ずと見出せるものであると考えるのである。そこでいささか教訓じみてもいるが，周りの人にも，事に対する処し方として話したこともあった。

もっとも，最近出版されたあることわざ辞典によれば，この言葉の本来の意味は，「誇張にも程がある」ということだそうである。だが，私としては，今まで思い込んできた意味のほうが的を射ているように思え，これから進んでいく新しい世紀においても継起的に起こるであろう困難な問題に対処する心構えとして有効ではないかと考えるのである。

２．いま，ミレニアムを記念した１年も過ぎ，いよいよ21世紀を迎えることとなった。「失われた十年」のもたらした閉塞感は，景気の上向き動向によっても，払拭されないままである。その同じ20世紀の最後の10年に，経済社会のなかで大きく取り上げられた言葉に，グローバリゼーションがある。この言葉には，情報化や交通手段の進展に伴う一層の国際化の認識も包含されていて，緊急に改善されねばならない課題も提起されているのではあるが，実体以上に，大きな猪がいるような幻影を与える趣があった。そのような騒ぎ方については，「山より大きい猪は出ない」と考えて，影を取り除いてみて，落ち着いて的確な対応を行うことが何よりも必要だったのであろう。

３．新しい世紀に危機的な陰を映し出しているものは，20世紀に至る歴史的な問題群である。それらは，対象とする局面も時間もまちまちではあるが，大略次のようなものであろうか。すなわち，冷戦構造の崩壊とその後の民族的紛争等の多発，人口爆発，急速な高齢化社会の出現，食糧とエネルギーの問題，地球温暖化等の環境問題の発生など技術の急激な進展がもたらした自然のバランスの破壊，核融合やバイオテクノロジーやコンピューター利用の情報技術など新しいテクノロジーに対する制御管理能力の未発達，などなど。そしてこれらの諸問題は，人間と自然と地球の存立の基盤を脅かしている問題であるが故に，解決されねばならないし，できるだけ早く克服しなければならないものである。

だが，これらの問題群に対しては，我々はいまだ有効な解決策を見出してはいない。そればかりでなく，近代社会成立以来の知の基軸の動揺のなかにあって，解決策を構築するパラダイムさえ探しあぐねているようだ。

４．ではどうしたらよいのだろうか。

まず，個々の問題については，各分野各方面の英知に期待して，その困難解決の方途を構築する以外にはない。それらは決して小さな問題ではないが，何といっても20世紀の人間社会が生み出した問題であるのだから，あえて，「猪」と思い定めて，解決策を構築しなければならない。

しかし，全体として事に対処する構えとしては，我々は次のような態度をもつことが必須なのではないだろうか。

それは，何よりも異なるものを排除しないという共生の思想に立つこと，何ごとも単一の原理によりワンパターンに割り切ることなく，多様な価値が実現されていくことを是認すること，であると思われる。なぜなら多様な価値は相互に矛盾する面をもつと見えても，より深く関連づけて考察すると，相補的な関係に立つものであるからだ。そしてもう一つ，事の解決に当たっては短兵急な態度ではなく，長い視野のなかで問題に対処していくことが是非とも必要と思われる。

（㈱農林中金総合研究所理事長　浜口義曠・はまぐちよしひろ）